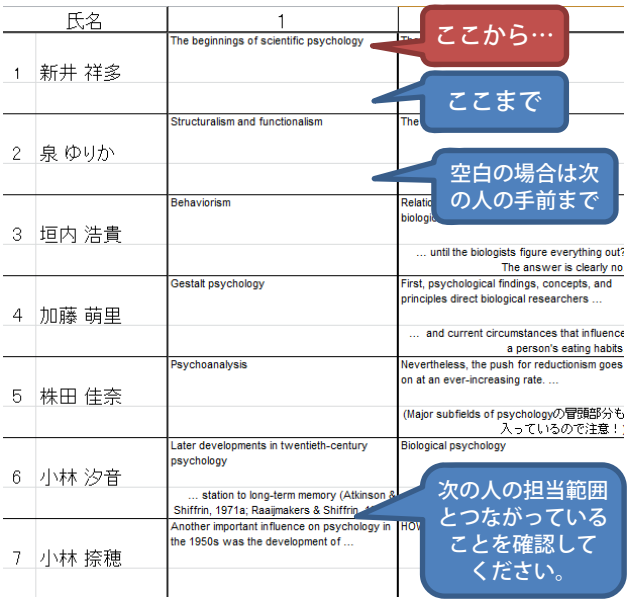
# 基礎演習 割り当て表の読み方




別紙の割り当て表について説明します。右図は表の一部を抜粋したものです。

基本的に、自分の担当範囲は「マスの左上から右下まで」と考えてください。ただし、右下部分の記述がない場合は、「次の人の開始地点の手前まで」と読んでください。たとえば、新井君は The beginnings of scientific psychology から始まり、右下の記述がないので、泉さんの担当範囲の開始位置である Structuralism and functionalism の手前までとなります。同様に、泉さんの担当範囲は垣内君の担当範囲（Behaviorism）の手前までになります。以下、学生証番号の順に担当範囲が進んでいき、鈴木博子さんの担当範囲が終わると 2 周目に入り、新井君の 2 回目の発表に続いていきます。3 周目以降も同様です。

セクションの区切りで切り良く担当範囲を区切れない場合は、「ここまで」を示す右下の記述を示します。小林汐音さんの 1 回目の担当範囲を見ると、左上の開始位置と右下の終了位置の両方の指示があります。この場合は、「その記述で終わるところまで」ということです。そして、次の小林捺穂さんと文章がつながっていることを確認してください。つながりがおかしかったら柳まで問い合わせてください。

このように、切りのいいところで担当範囲が受け継がれる場合、右下の指示がなくなりますが、一人につき 1 セクションあるいは 1 項目などの決まりはありません。あくまでも、「次の人の手前」までです。自分で勝手に終了位置を決めつけないように気をつけてください。

割り当て範囲をうまく区切れないこともありますので、人によって担当範囲の分量が増減します。ですが、累積でどのくらいの量を分担しているかを管理していますので、今回の担当範囲が多ければ、そのうち短い範囲の割り当てがくるだろうと思ってください。

4/23の授業は全員が1回目の発表を終えた時点で終わりにしますが、その後の授業では、全員の発表が終わっても時間いっぱいまで続けていきます。従って、その日の最初の発表者は、自分に2度目の発表が回ってくる可能性を考えておいてください。

発表が回ってきた時点で訳文が用意できていない場合は、無断欠席と同様に扱います。授業が進むうちに、ある程度は進行速度についての読みができてくると思いますが、予想外の展開になったとしてもこちらは関知しませんので、そのつもりで余裕を持って準備してください。

訳文の作り方は初回の授業で説明したとおりです。柳の訳文（第1章第1ページ）の体裁に従ってください（厳密に全く同じでなくても構いませんが）。担当範囲に引用文献がある場合は、テキストの最後にある文献リストから該当する文献情報を訳文の最後に載せてください。また、心理学辞典等で専門用語を調べた場合は、訳文の脚注でその意味を説明してください（説明の最後に「辞書名（出版社）」を書いてください）。辞書の説明が長い場合は現在の文脈に照らし合わせて適当な範囲を抜粋すれば十分です。